朝 日 地 区 水 面 利 用 計 画



CONTENTS

1. 朝日地区水面利用計画の背景 … 1
2. 基本コンセプト … 1
3. 整備方針 … 2
4. 整備計画 … 3
5. 利活用の課題 … 9
6. 今後の推進体制 … 10





国土交通省　山形河川国道事務所

朝日地区水面利用計画

1. 朝日地区水面利用計画の背景

朝日町を流れる最上川は、古くは舟運で利用され、最上川でももっとも激流のポイントを持っており、しばしば破舟事故も発生するほどの難所でした。しかし、かつての舟運の難所は、上流部特有の変化に富んだ流れと美しい景観があることから、現在は絶好のカヌースポットとなっています。

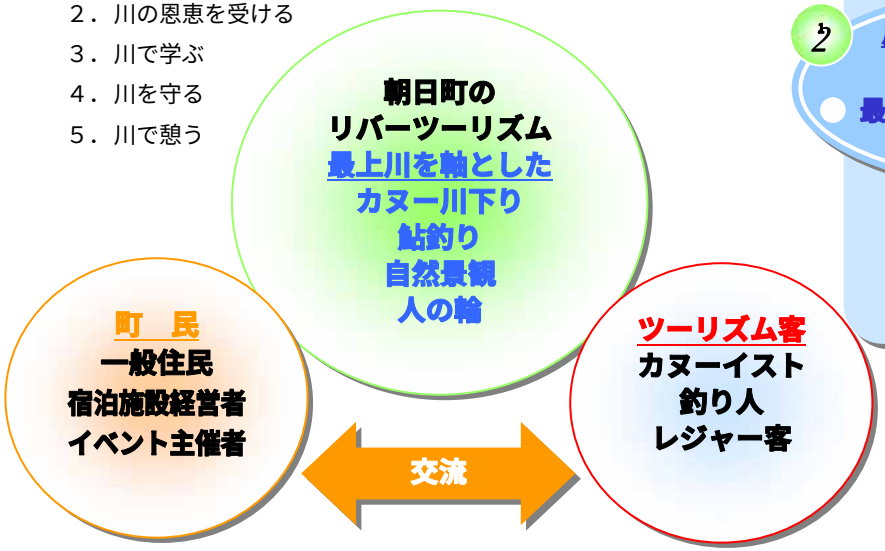
その親水空間は「朝日町のエコミュージアム」で地域資源（サテライト）の１つとして位置づけられていると同時に、国土交通省の「水辺プラザ整備事業」の対象区間としても位置づけられ、朝日地区におけるカヌー等の非動力船による水面利用を盛んにし、観光面での地域振興に寄与するような整備の実施が課題となっています。

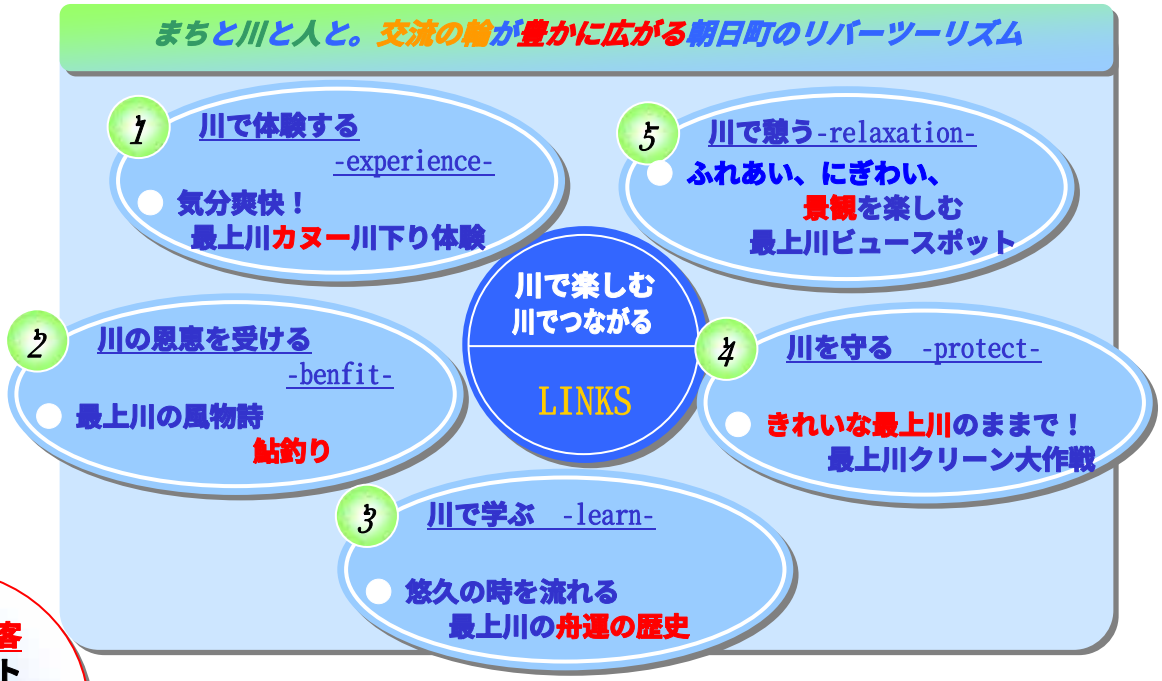
このような背景から、朝日地区の水辺整備に際し、町の総合計画と整合を図りつつ、実際の整備内容及び整備後の利活用方策について、最上川の水面利用に深い関わりを持つ分野の方々の自由なご意見を伺った結果、次のような基本コンセプトと基本方針が浮かび上がってきました。

2. 基本コンセプト

まちと川と人と。交流の輪が豊かに広がる
朝日町のリバーツリズム

１．川で体験する
２．川の恩恵を受ける
３．川で学ぶ
４．川を守る
５．川で憩う





朝日地区水面利用計画

3. 整備方針

方針１　カヌーは自然を満喫するスポーツ。過度な整備は行わず必要最小限の不便の解消を図る。（利便性向上）
最上川の景観は地域の宝。過度な整備は避ける。（景観保全）

方針２　雪谷・玉ノ井地区は、将来競技カヌー大会を開催することを考慮した拠点整備を行う。
（地域活性化）

方針３　町民・カヌー利用者・一般客それぞれの利用に配慮した整備を行う。（河川の平等な使用）

方針４　釣り人とカヌー利用者のトラブルが起こらないような配慮を行う。（釣りとカヌーの兼ね合い）

【雪谷地区カヌーランド】

◇多目的広場の整備
- 入り口
- 駐車場 38 台
- カヌーハウス
- マナー看板
- 坂路

◇進入路

◇水面への坂道

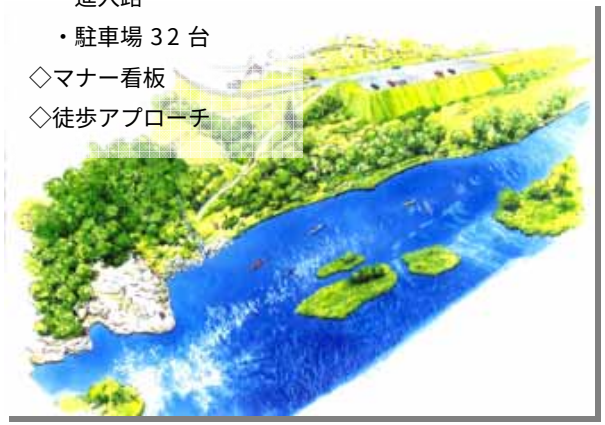


【玉ノ井地区カヌーランド】

◇駐車場
- 進入路
- 駐車場 32 台

◇マナー看板

◇徒歩アプローチ



［支障物対策］
- テトラポッド
- 量水標柱







朝日地区水面利用計画

■ 4. 整備計画

■ 4-1. 雪谷地区整備

◆現状の利活用状況◆

【県外のカヌーショップ主催のカヌー教室・川下り体験】

・雪谷～玉ノ井間で、カヌー教室・川下り体験教室などがシーズン中に開催されている。

・開催頻度：シーズン中週３・４回／月 12～16 回程度

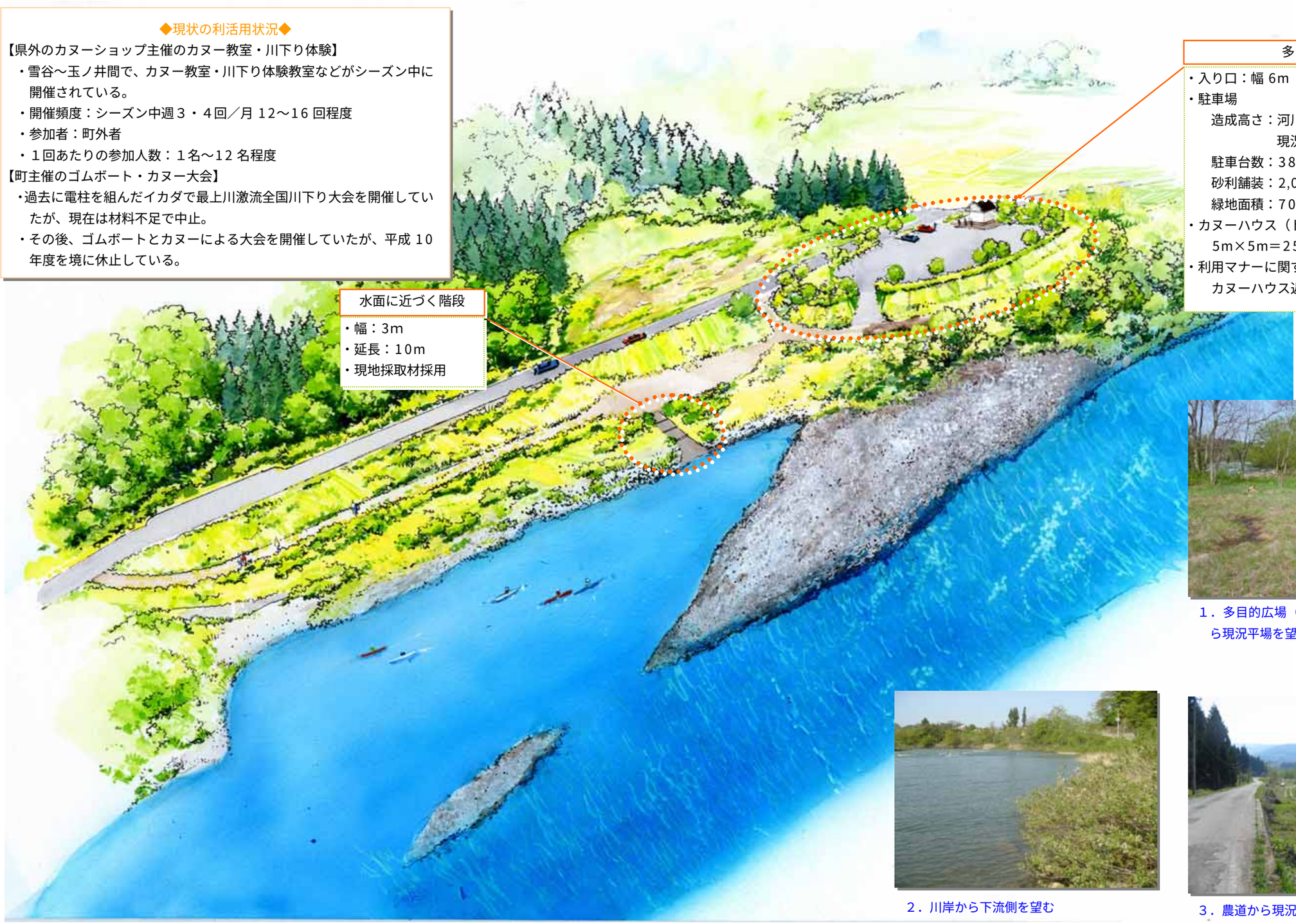
・参加者：町外者

・１回あたりの参加人数：１名～12 名程度

【町主催のゴムボート・カヌー大会】

・過去に電柱を組んだイカダで最上川激流全国川下り大会を開催していたが、現在は材料不足で中止。

・その後、ゴムボートとカヌーによる大会を開催していたが、平成 10 年度を境に休止している。



水面に近づく階段

・幅：3m

・延長：10m

・現地採取材採用

多目的広場

・入り口：幅 6m

・駐車場

造成高さ：河川敷（高水敷き）高さ

現況 142.0m～144.0m

駐車台数：38 台

砂利舗装：2,000m²

緑地面積：700 m²

・カヌーハウス（トイレ・更衣室）

5m×5m＝25 m²

・利用マナーに関する立て看板

カヌーハウス近くに設置



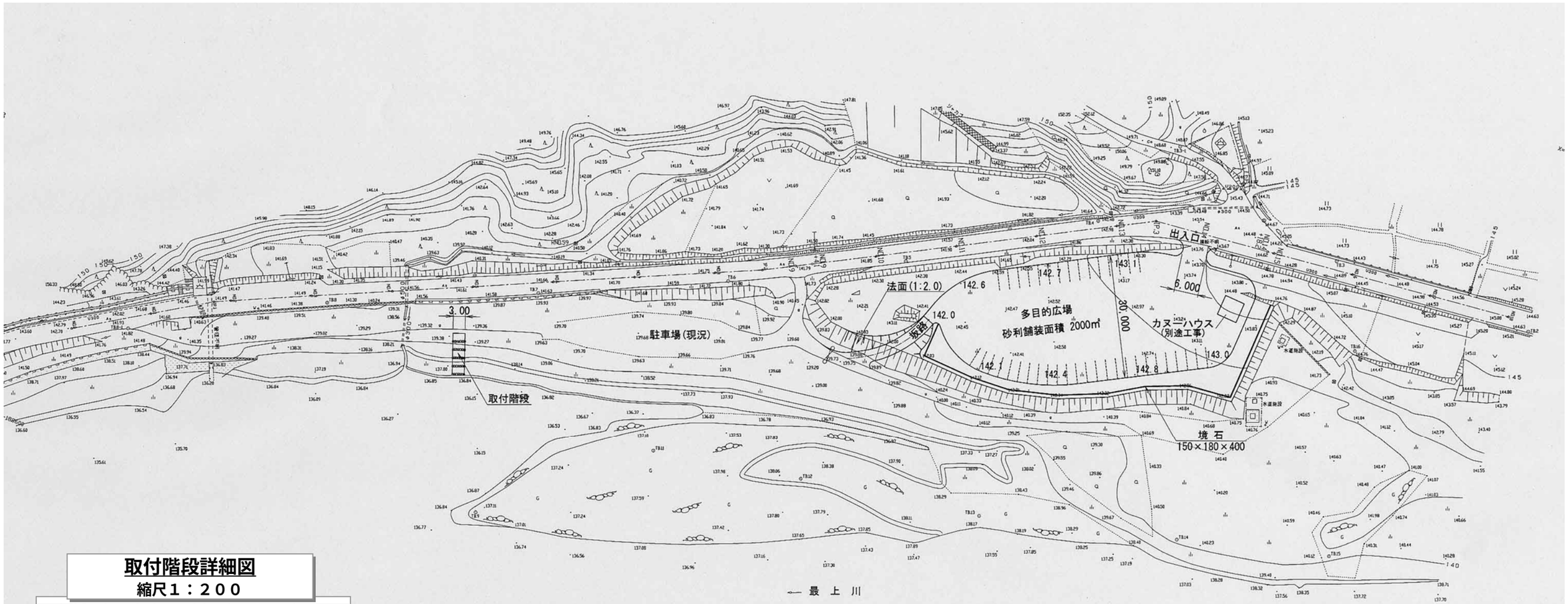
１．多目的広場（計画）入り口付近から現況平場を望む

２．川岸から下流側を望む

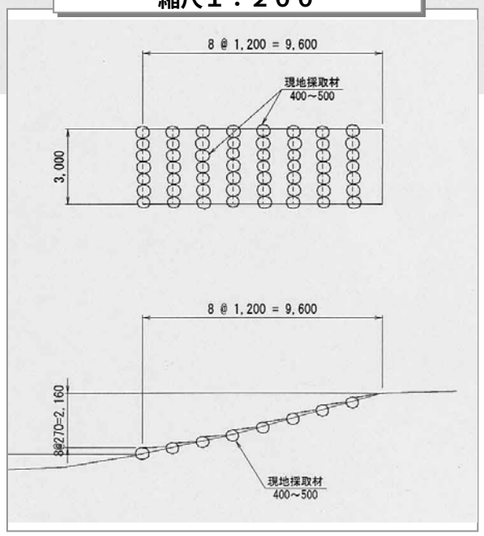


３．農道から現況の駐車場を望む

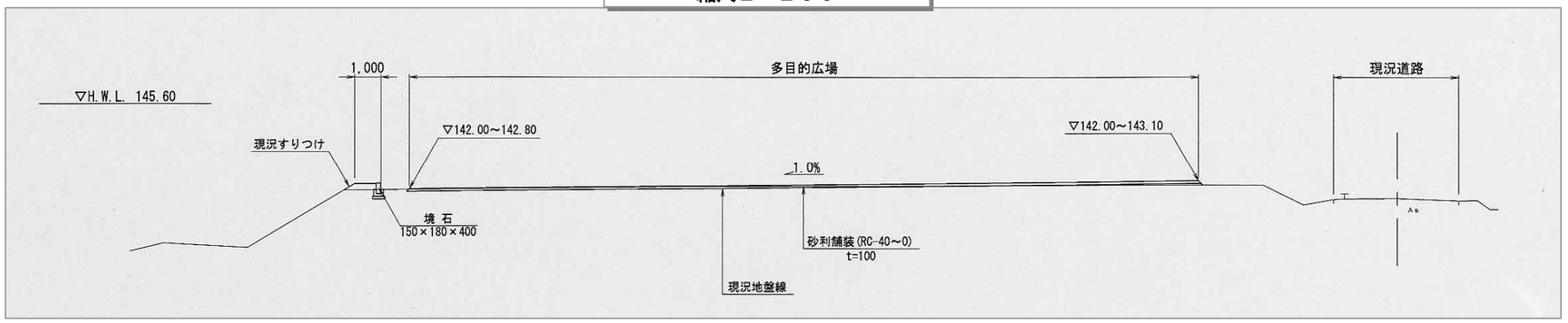
雪谷地区整備計画図
縮尺１：１０００



取付階段詳細図
縮尺１：２００



多目的広場標準断面図
縮尺１：２００



朝日地区水面利用計画

■ 4-2. 玉ノ井地区整備

◆現状の利活用状況◆

【県外のカヌーショップ主催の全国ロデオ大会】
- 毎年１回４月にロデオの世界選手権をたんの瀬で開催。
- 参加者：県外のカヌーイスト（北海道から九州まで）
- 参加人数：選手 70 名・スタッフ 30 名・計 100 名強

【町主催のカヌー大会】
- 過去に電柱を組んだイカダで最上川激流全国川下り大会を開催していたが、現在は材料不足で中止。
- その後、ゴムボートとカヌーによる大会を開催していたが、平成 10 年度を境に休止している。

カヌーハウス



利用マナーに関する立て看板
- カヌーハウス近くに設置
- （カヌーハウス：トイレ・更衣室）
- （駐車場：約 7 台）



２．川岸（農道）に抜ける小みち



１．川岸（農道）に抜ける小みち

駐車場の整備
（土地のもり立て案）
- 駐車台数：32 台
- 駐車場面積：800 m²
- 盛土高さ：約 7m
- ガードレール撤去：L=90m

徒歩アプローチの整備
- 幅：2m
- 延長：18m
- 勾配：11%
- 砂利舗装

ロデオ大会時の駐車場



ロデオ大会時の路上駐車



ロデオ大会時のギャラリー





３．農道から玉ノ井地区全体を望む

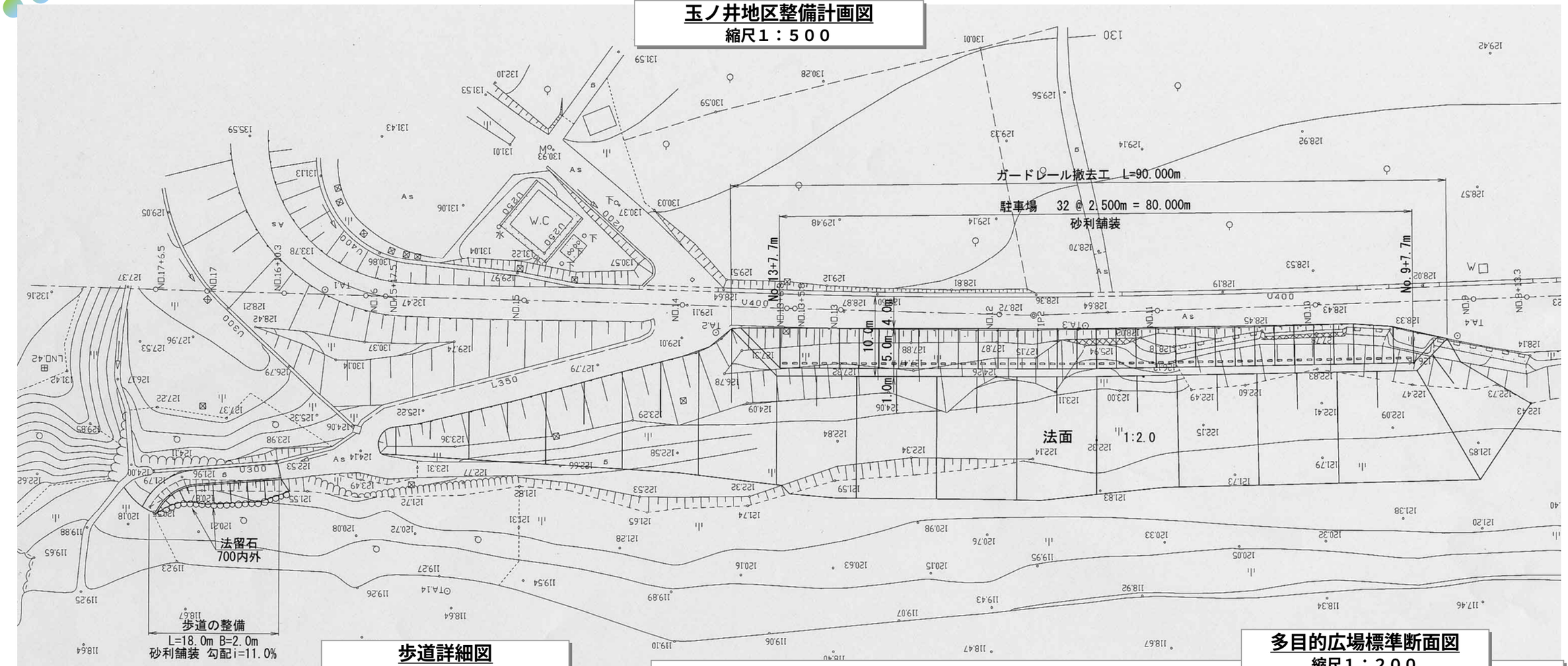


４．農道から川を望む

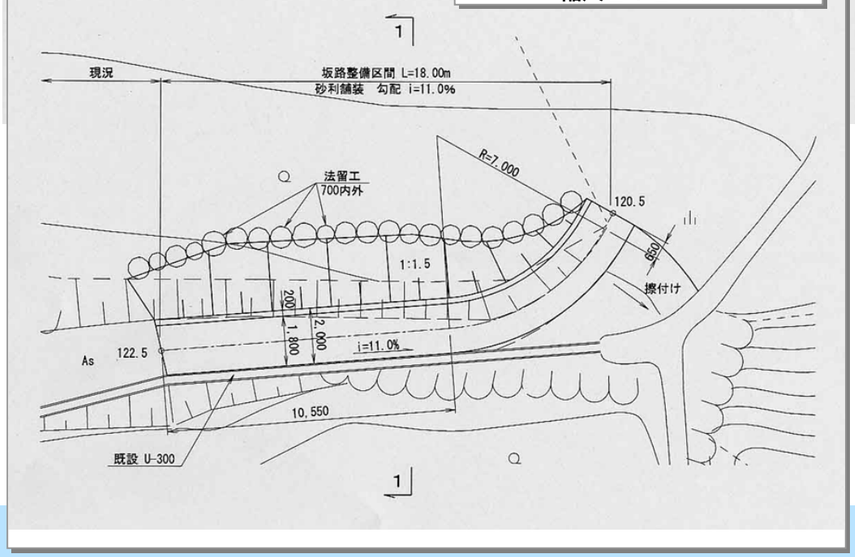


５．川岸から農道へ抜ける小みちを望む

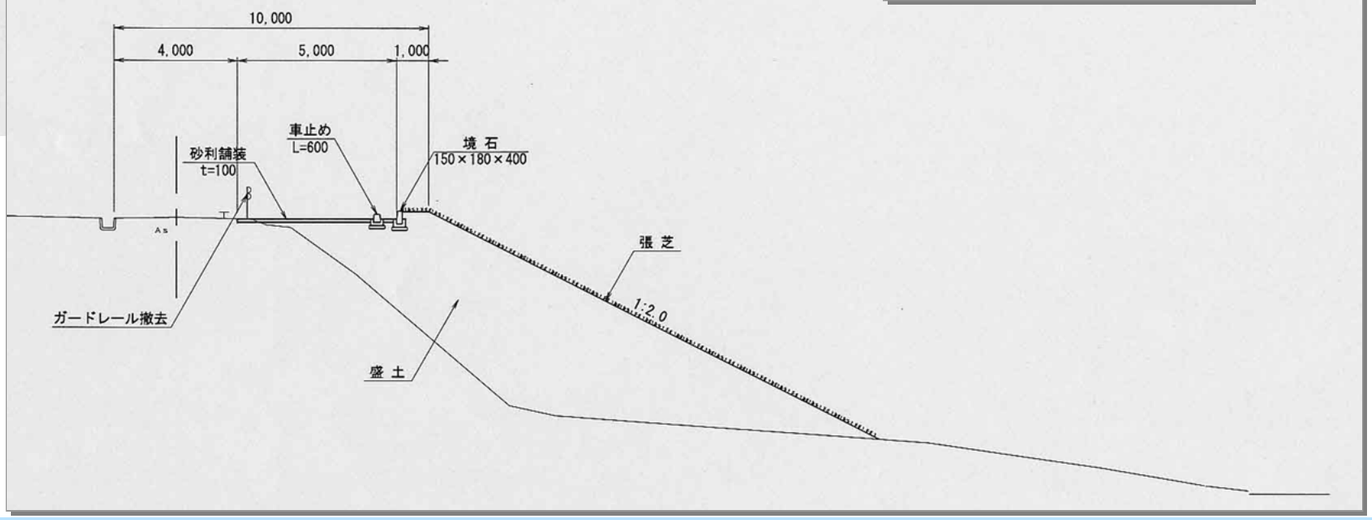
玉ノ井地区整備計画図
縮尺１：５００



歩道詳細図
縮尺１：２００



多目的広場標準断面図
縮尺１：２００



朝日地区水面利用計画

■ 4-3. 雪谷～玉ノ井区間整備 （支障物対策）

◆現状の利活用方法◆

【県外のカヌーショップ主催のカヌー教室・川下り体験】
- ・川下りを楽しんでいる。
- ・途中にある休憩スポットでカヌーを下りて休むこともある。

【町主催のカヌー大会】
- ・現在休止中。

【鮎釣り】
- ・鮎釣りポイントが８ヶ所ある。
- ・解禁７月７日～10 月 31 日。
- ・１日 30～40 人いることもある。
- ・県外客が過半数を超える。

ビューポイント



ゴミだまり



支障物の対策　（ブイの設置）

カヌー利用者や釣り人が支障物にすぐに気づくよう、目印しとなるブイを設置します。（視認性の向上）



浮きのみのタイプ



浮きに標識をつけたタイプ

支障物②　水位観測所の量水標柱　五百川橋付近





支障物①　テトラポット



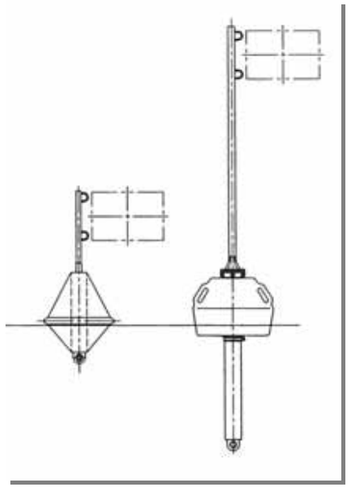


■ 河川内の支障物のサイン例（ブイ式）

ブイの種類（小型・中型）

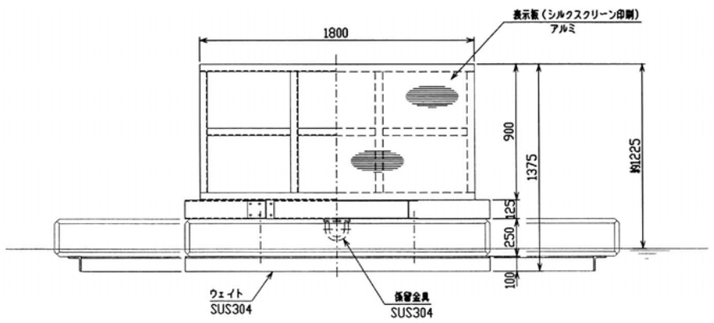
レジャー用やレース用などの小型船舶を対象にした標識として利用されているマーカーブイとよばれる小型のブイです。



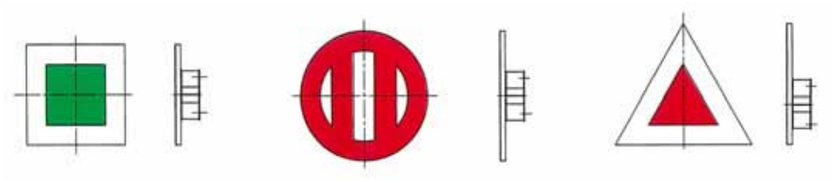




マーカーブイよりも大きなタイプで、1900×900 の表示板を持った筏タイプの中型ブイです。

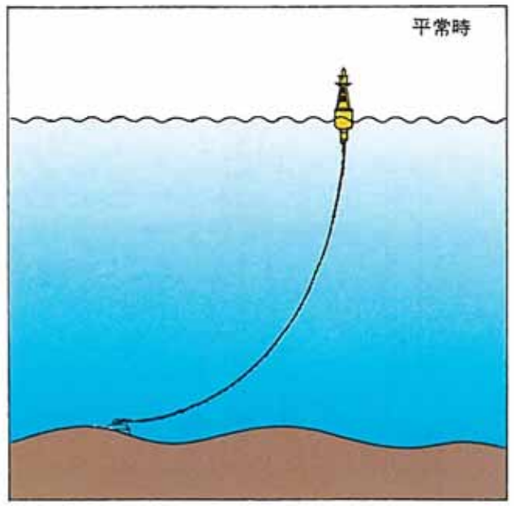


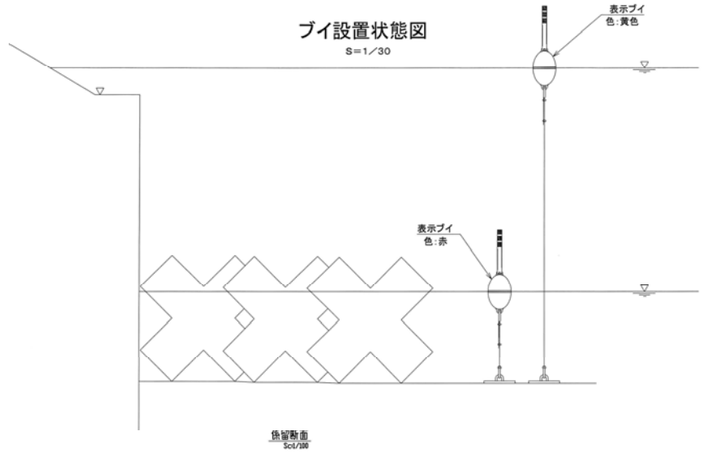
■ブイには下のような標識をつける事もできます。
（明確な注意事項を表示できます）

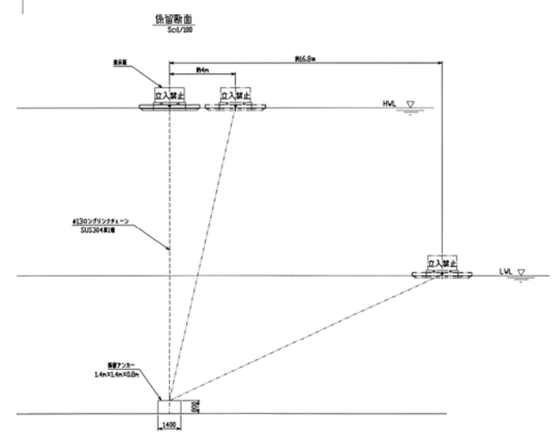


■ 設置状況イメージ

ブイ式のサインを河底に固定して浮かせる構造となっています。







5. 利活用の課題

課題1 維持管理・運営上の課題

- ✧ 拠点整備にあたっては、整備後の維持管理をどのように行うかが課題となります。利用者・地元地域・施設管理者・河川管理者などの関係各機関の役割分担を明確にするとともに、ボランティアの活用や利用者主体のクリーンアップ作戦など、維持管理方策を講ずることが必要です。
- ✧ また、町管理の施設となると維持管理の費用創出が課題となるため、受益者負担による料金徴収のしくみづくりなどの検討が必要です。

課題2 カヌーランド利用者へのマナー周知に関する課題

- ✧ 拠点整備を行うとカヌー利用者の他に釣り客なども利用するようになります。カヌー愛好者は比較的マナー水準が高いといわれていますが、拠点整備にあたっては水面利用者全体のマナー向上も積極的に進めていく必要があります。
- ✧ 県のカヌー協会が協会員に推奨しているマナーが一般レジャー客には通じないこともあるので、地元地域の意向も踏まえながら、汎用化できるマナーを検討し、徹底していくことが必要です。

課題3 カヌー及び地域情報発信の課題

- ✧ 水面利用者が増加すると、増水情報やマナー情報、利用案内などカヌーに関する情報提供のみならず、関連するイベント情報や宿泊、食事処、お土産などの地域の情報を総合的に提供するしくみが必要となります。
- ✧ 現在、インターネットの利用者は全国で増加の一途をたどっており、これにともない WEB サイト（ホームページ）からレジャー情報を得る人々も多くなっていまると考えられます。特に県外客の利用者増を図るのであれば、朝日町のホームページでこれら情報を総合的に発信することは重要であり、今後検討が必要です。

課題4 朝日町民がカヌーで盛り上がるためには

- ✧ 朝日地区はカヌーによる川下りの絶好の流れとすばらしい景観を有しています。これら地域資源を活かし地域活性化を図っていくのであれば、まず町民自身が最上川への理解を深め、カヌーの楽しさを知ることが大切です。
- ✧ エコミュージアムセンターなどを活用し、川やカヌーの魅力発見の学習講座を開催したり、実際にカヌーに乗って川下りを体験したり、カヌーイベントを開催するなど、町民の理解度、盛り上がり度に応じた取り組みを進めていくことが必要です。

6．今後の推進体制

朝日町では、今後、朝日地区水面利用計画の利活用方策等を検討する組織として、以下の組織を立ち上げることとしました。

■名称：朝日町水面利活用協議会（仮称）

■目的：朝日町を流れる最上川において、川が育んだ豊かな自然と美しい景観、ともに歩んできた地域の歴史・文化に触れながら川に親しむとともに、多様な体験を通して交流人口を増やし地域振興に資するため、最上川の利活用方策等について検討することを目的とする。

■構成：

	構　成　員		構　成　員
会員	朝日町　助役 国土交通省　山形河川国道事務所　河川副所長 山形県カヌー協会　理事長 Ｗ－ＰＬＡＹ　代表 ＮＰＯ法人朝日町エコミュージアム協会　理事 朝日町観光協会　会長 最上川第一漁業共同組合　副組合長 朝日町商工会　青年部長(有)地球耕望　りんご温泉　支配人 (有)朝日町ワイン　専務 朝日町助ノ巻区長 朝日町雪谷区長 朝日町栗木沢区長 計13名	事務局 （朝日町）	総務課長 建設課長 企画課長 産業振興課長 管理課長（教育委員会） 生涯学習課長（　〃　）
		事務局 （国土交通省）	山形河川国道事務所　工務第一課 〃　寒河江出張所